

1. 教員養成の目標及び計画について

工学部創生工学科では、“ものづくり”を担う次世代を育成できる教師として、専門教育と教職に関する専門教育を有機的に関連付けながら、具体的かつ効果的な指導と援助ができる実践的な指導力を育成することを目指しています。具体的には、「幅広い教養の基礎の上に、深い専門知識・技術を身に付けた教師」「生徒とともに物事にねばり強く取り組み、真理を探究し続ける研究熱心な教師」「生徒一人一人が抱えている諸問題に親身になって対応できる豊かな人間性と指導力を身に付けた教師」「環境と生命の大切さを基本においた生態的かつ文化的多様性を理解・尊重する教師」という4つの教師像を掲げ、地域に根ざした工学教育の伝統を踏まえつつ、時代に応じた柔軟な変革を行うことで、質の高い教員養成に取り組んでいます。

－各学年における到達目標－（工学部創生工学科）

1年次（前期）

- ・教職課程ガイダンスを通して、教員とは何かを理解する。
- ・施行規則第66条の6の科目を履修するとともに、教科に関する基礎的な知識を身に付ける。

（後期）

- ・4年間を見通した、教職科目の履修計画を立てる。
- ・教職の意義及び教員の役割を学ぶとともに、教育の理念・歴史及び思想を学ぶ。
- ・教育の基礎理論を身に付けるとともに、教科に関する科目の履修を通して専門的知識の修得に努める。
- ・施行規則第66条の6に関する科目の履修を完了する。

2年次（前期）

- ・教育の基礎理論並びに教育課程に関する科目を学ぶ。
- ・生徒指導及び進路指導の理論及び方法を学ぶ。
- ・教育制度の理念、教育制度に係る法規について学ぶ。

（後期）

- ・特別活動の指導法並びに総合的な学習(探究)の時間の指導法について学ぶ。
- ・特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する理解について学ぶ。
- ・教育の方法及び技術について学ぶとともに、教科に関する科目の履修を通して専門的知識の修得に努める。

3年次（前期）

- ・教科教育法（Ⅰ）を学び、生徒への教科指導法を身に付けるとともに、教科に関する科目の履修を通して専門的知識の修得に努める。

（後期）

- ・学校現場で求められる教員像を理解する。
- ・教科教育法（Ⅱ）を学び、生徒への教科指導法を身に付けるとともに、教科に関する科目の履修を通して専門的知識の修得に努める。
- ・最終年次の実習・演習へ向けて、教職に関する講義科目は全て履修する。

4年次（前期）

- ・教育実習を通して、自分を見つめ直し、教育職員としての心構えを再認識する。

（後期）

- ・教職課程の総仕上げとして、現場に即した実践的な演習を体験する。

看護学部看護学科では、調和の精神と看護専門職としての高い倫理観をもち、社会に貢献できる人材の養成を目的としており、看護学部看護学科の設置によって、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得させ、他職種と協働できる、地域に貢献できる人材の育成を一層推進していくことにしています。それとともに、いじめや不登校の問題における初等、中等教育段階での養護教諭の重要性がますます高まっている現在、教育界への優れた養護教諭の輩出も重要な責務となっています。そのため、看護学部看護学科においては養護教諭一種免許状を取得できるようにして、多くの有為な人材を送り出すことに取り組んでいます。

－各学年における到達目標－（看護学部看護学科）

1 年次（前期）

- ・施行規則第 66 条の 6 に関する科目を履修する。
- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。

（後期）

- ・「教職論」の履修を通して教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容等、教職の意義等に関する内容を学ぶ。
- ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を学ぶ。
- ・心身の発達及び学習の過程について学ぶ。
- ・特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する理解について学ぶ。
- ・施行規則第 66 条の 6 に関する科目の履修を完了する。
- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。

2 年次（前期）

- ・教育の基礎理論並びに教育課程に関する科目を学ぶ。
- ・生徒指導の理論及び方法を学ぶ。
- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。

（後期）

- ・教育の方法及び技術について学ぶ。
- ・教育相談について学ぶ。
- ・道徳や特別活動について学ぶ。
- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。
- ・養護実習及び教職実践演習を除く全ての教職に関する科目の履修を完了する。

3 年次（前期）

- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。

（後期）

- ・養護に関する科目の履修を通して、専門的知識の修得に努める。

4 年次（前期）

- ・養護実習を通して、自分を見つめ直し、教育職員としての心構えを再認識する。

（後期）

- ・教職課程の総仕上げとして、現場に即した実践的な演習を体験する。